

はじめに

大学入試で出題された整序英作文問題の中から、受験生なら必ず一度は解いておくべき「良問」を精選しています。1回の演習で10問ずつ出題しており、演習は全部で50回ありますから、合計で500問解くことになります。この500問を解くことによって、整序英作文を解くために必要かつ十分な練習をすることができるように本書は設計されています。これは、同時にライティング全般で必要とされる文法・語法・構文の土台が完成するということです。

整序英作文とは「単語が与えられた英作文」と同じことですから、英文を書くという意識を持って取り組むことがとても大切です。しかも、入試で出題される整序英作文には文法・語法・定型表現などのポイントが必ず含まれています。ですから、英文法の基本的な学習が一通り終わった段階で本書に取り組むのが効果的と言えます。また、英文を書くために最低限必要となる英文を書くための品詞と語順の基本知識をp.006からまとめていますので、最初にそれを読んでから問題に取り組むようにしましょう。

問題は別冊になっています。設問の指示文はつけていません。与えられた語句を並べかえて正しい英文にしてください。文頭に置かれる語や句も小文字で書いてあります。そして本冊の解答・解説では、まず、その問題の具体的な解法手順の説明や、正解・不正解の英文に関する詳しい解説が続きます。「なぜその答えになるのか？」という解答の根拠を理解することが大切です。次に、大前提となる英文法の知識を「参考」としてコンパクトに掲載しています。「参考」の知識や表現はすべて理解して覚えるようにしてください。

まとめには代表的な表現をリストアップしてあります。すべて正確に再生できるまで何度も繰り返して覚えてください。さらに、**まとめ**の表現に関して辞書を引き、その具体的な使用例を確認することを勧めます。辞書の例文を声に出して発音したり、ノートに書いてみたりすることは立派なスピーキングとライティングの勉強になります。なお、完成した英文を読み上げた音声聞いて勉強することができます。詳しくは、p.004の読み上げ音声の活用方法をご覧ください。

コミュニケーション・ヒントは、問題のポイントを、主にライティングやスピーキングの試験で活かすための大切なヒントを記したコラムです。大学入試で活用されることになる様々な問題形式や、受験生の典型的なミスの詳細に分析した結果、「ここを押さえれば高評価につながる！」というポイントを具体例とともに説明しています。問

題の解説とともに熟読し、また指示に従って練習を繰り返すことで、4技能入試に対応できる総合力を養ってください。

500問をすべて解いて、解答・解説を一通り読んでも、それで終わりではありません。大学入試に必要なかつ十分な英文法の知識を完璧に定着させるためには、何度も何度も繰り返すことが大切です。計画を立てて定期的に復習をしてください。そうやって定着した英文法の知識が、英語4技能（＝リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）を支える土台となるのです。

本書の記号

S：主語（原則として名詞）

V：述語動詞

O (O₁ / O₂)：他動詞や前置詞の目的語（原則として名詞）

C：補語（原則として形容詞や名詞）

to do：to 不定詞

do：原形不定詞

doing：現在分詞・動名詞

done：過去分詞

*修飾要素（句・節）に関しては、「かっこ」の使い分けをする。

[]：名詞句[節]

()：形容詞句[節]

< >：副詞句[節]

読み上げ音声の活用方法

①文法の理解を〈読む〉〈聞く〉〈書く〉〈話す〉につなげよう！

- ・設問と解説で文法や語法の重要ポイントを理解したら、必ずそのポイントを定着させ、さらにそれを運用できるようにしなければなりません。単なる知識から「読む」「聞く」「書く」「話す」という実技につなげることで、試験での大きな得点力につながるのです。
- ・ポイントを定着させるには、文法や語法に関する個別の知識を、「文」の一部として扱うことが必要です。たとえば、「疑問詞+do you think+(S) V?」というポイントならば、Who do you think told her the truth? (彼女に本当のことを教えたのは誰だと思いますか?) という、一定の内容をともなった文の一部として扱うことが大切です。
- ・「文」という単位が大切なのは、「読む」「聞く」「書く」「話す」という実技が、基本的には「文」を単位として行われるからです。本書のような整序英作文の場合は、語句を正しく並べ替えて完成した英文がそれにあたります。

②音声を活用した復習で得点力をアップさせよう！

- ・「文」単位での復習を強力にアシストしてくれるのが本書に付属する「読み上げ音声」です (ダウンロードについては p.005 を参照してください)。完成した英文の重要ポイントを念頭に置きながら、音声を聞き、さらに自分で読み上げる、さらには書き出す作業を行ってください。
- ・音を用いることで、文法や文構造のポイントを「音のつながり」として身につけることが促されます。例えば、Who do you think told her the truth? という表現に繰り返し接することで、「疑問詞+do you think+(S) V?」という形が身につく、また「Do you think+疑問詞+(S) V?」という語の並びに違和感を覚えるようになるのです。
- ・〈ポイントを理解する〉→〈表現として定着させる〉→〈実技に生かす〉というサイクルを意識しましょう。そうすることで、整序英作文問題だけでなく、読解問題、リスニング、さらにはライティングやスピーキングという〈発信型〉の技能にもスムーズにつながり、結果として試験全体での得点力が大きくアップします！

■具体的な活用例■

- ①設問を解き、解説をしっかりと読む。正解、不正解にかかわらず設問の重要ポイントを確実に理解するように心がける。
- ②完成した英文の音声を聞いて、文全体をノートなどに書き出す。このとき、文意を理解していることが大切。
- ③書き出した英文を見ながら音声を聞き、それに続けて音読する。これを最低2回繰り返す。このとき、設問の文法ポイントを強く意識する。

ダウンロード用音声は音読練習用に編集されています。英文が読み上げられた後で、音読用のポーズ（無音部分）が置かれています。ポーズの後もう一度英文が読み上げられ、再びポーズが置かれます。

- ④最後に、文全体をノートなどに2~3回書き写す。音読しながら書き写すと効果的。

ダウンロードについて

パソコンから下記の URL にアクセスしてください。

<http://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>

※ホームページより直接スマートフォンへのダウンロードはできません。パソコンにダウンロードしていただいた上で、スマートフォンへお取り込みいただきますよう、お願いいたします。

- ・ファイルは ZIP 形式で圧縮されていますので、解凍ソフトが必要です。
- ・ファイルは、MP3 形式の音声です。再生するには、Windows Media Player や iTunes などの再生ソフトが必要です。
- ・演習 1 回分が 1 つのファイルになっています。
演習 1 回目：RS01、演習 2 回目：RS02、……演習 50 回目：RS50 と、全 50 ファイルで構成されています。
- ・掲載されている音声ファイルのデータは著作権法で保護されています。データを使用できるのは、ダウンロードした本人が私的に使用する場合に限られます。
- ・本データあるいはそれを加工したものを譲渡・販売することはできません。

お客様のパソコンやネット環境により、音声を再生できない場合、当社は責任を負いかねます。ご理解とご了承をいただきますよう、お願いいたします。

- 10 Has it really been that long? It (it / only yesterday / seems to me /
 that / was) when we last met. (センター試験)

演習 2 回目

PS02

問題 11 ~ 20

(→ 解答・解説は本冊 p.011)

- 11 トムが着いたときには劇場は多くの観客で混雑していた。
 When Tom arrived, (with / he / the theater / crowded / found) a large audience. (大正大)
- 12 コンピュータを使用していないときは電源を切ってください。
 When you () () () your computer, please () () () .
 [are / it / not / off / turn / using] (専修大)
- 13 あなたが昨日話してくれた計画について、私を変えようと思うことは一つもない。
 There's (a thing / about / I / not / plan / the / would change) you told me yesterday. (立命館大)
- 14 その店ではできるだけ多くの種類のCDを置こうとしている。
 The shop is trying (as / as possible / different / many / of CDs / stock / to / types). (龍谷大)
- 15 She (help / her friends / her with / asked / to) her English assignment. (椋山女学国大)
- 16 成功させるという強い意志がないなら、その仕事は引き受けない方がよい。
 You shouldn't take the job (you / have / to / a strong will / unless / it / make) a success. (神戸学院大)
- 17 私は誰とでも仲良くなれる方法を知りたい。
 I want to know (with / along / to / get / how) everybody. (名古屋学院大)
- 18 We happened (get / a taxi / into / see / to / your father) this afternoon. (獨協大)

コミュニケーション・ヒント

「え? どういうこと?」 — 「つまりね…」

◆動詞 mean は「本意」や「意図」を表すため、互いの理解を確認するやりとりで欠かせません。以下の表現をマスターして、スピーキングやライティングで積極的に活用しましょう。

A: I both agree and disagree with this idea.

「この考えには賛成でもあり、反対でもあります」

B: ① **What do you mean by that?**

「それはどういうことですか?」

A: ② **I mean that** I see both advantages and disadvantages to it.

「つまり、利点も欠点もあると思うのです」

B: ③ **You mean,** helping children with trouble may also do some harm to them.

「子供の問題に手を貸すことが子供に悪影響になりうる、ということですか」

A: ④ **That's exactly what I mean.**

「まさにそういうことです」

→ ①は相手の発言の趣旨を確認する定型表現です。“I'm not sure what you mean by that.”なども言えます。②は、自分の発言の趣旨や本意を述べる時に便利な切り出し方です。“What I mean is that …”と言えども少し堅く聞こえます。逆に“I mean, …”と that を省略して間を置くとよりカジュアルに聞こえます。③は、相手の発言を言い換えて、自分の理解の正しさを確認するための表現です。“Are you saying that …?”などとも言えます。④は、相手の理解が正しいことを伝える定型句です。

80

解説

Can I book a table for three for 7:00 next Saturday?

ウィドウソン夫妻は息子と一緒にレストランで食事をする計画を立てている。ウィドウソン氏は予約するためにレストランに電話をかける。彼は「来週の土曜日の7時、3名で予約できますか?」などと言うだろう。

eat out 「外食する」 make a reservation 「予約する」

解説

✓「レストランの予約をする」という話題から、book を動詞だと見抜くことがポイント。動詞の book は「部屋・座席・切符などを予約する (= reserve)」という意味を持つ。book [reserve] a table for A で「A名でテーブルを予約する」という意味。よって、Can I book a table for three for 7:00 next Saturday? 「来週の土曜日の7時、3名で予約できますか?」とすれば正解。

(例) I booked a single room for three nights. 「私はシングルを3泊予約した」

(例) You can book a seat on the Shinkansen online.

「新幹線の座席はネットで予約できる」

(例) You should book tickets in advance.

「前もってチケットを予約した方がいいよ」